



# ゆかりびと

第28回

父 鈴木 久 さん  
栃木モグラフィーム代表 鈴木 敬 さん

## 最高を超える「獺祭」を目指して 矢板産山田錦が準グランプリ受賞



日本酒「獺祭」を製造する(株)獺祭が、米の栽培農家の高品質な米作りへの意欲を高めるため、山田錦の品質コンテスト「最高を超える山田錦プロジェクト」を立ち上げたのは、今から7年前のこと。ちょうどその頃、幸岡地区で代々続く農家の七代目として代表を務める鈴木 敬さんは、酒米の最高峰と称される「山田錦」の栽培に挑戦し始めました。右も左もわからないまま、第1回目のコンテストから参加したものの、その後は6年連続で予審落ち。「もう諦めよう」そう思ったその年の大会で、共に切磋琢磨してきたライバル、五月女農場(大田原市)がグランプリを受賞しました。その姿は、敬さんの闘志を再び奮い立たせてくれました。

悔しさをバネに創意工夫を重ねながら、志を同じくする山田錦栽培農家とノウハウを共有。家族の支えも力に変えながら、今年、追肥の方法や品質管理を徹底し、栽培に向き合ってきました。その結果同コンテストで、全国から出品された142点の中から準グランプリを受賞。80俵で賞金1,500万円という高い評価を得ることができました。

「諦めずに積み重ねた時間と経験がやっと形になった」そう語る一方で、「グランプリは、そんなに甘くない」と逃した頂点への悔しさもぞかせます。それでも、今回決勝進出者に選ばれたことは大きな前進でした。決勝常連の農家の話が聞けたことや、他の農家が育てた米を目にできたことなど、得るものも多かったと振り返ります。「決勝進出者は全国でも名の通った実力者ばかり。そのステージにやっと立てたと実感した。グランプリという称号が手の届くところまで来た感覚がある。次こそは日本一を狙いたい」と話す敬さん。積み重ねてきた挑戦の先に、確かな手応えを感じながら、まだ見ぬ頂点を目指します。

### Editor's Note 編集後記

▷今年も全国広報コンクール栃木県予選の広報紙部門と写真部門で、共に県代表に選ばれ、9月号表紙写真と12月号の2作品が全国大会へ出場中です。市民の皆さんと作り上げた作品が高評価いただけたこと、うれしい限りです。(DYC)

▷イヤホンなどの長時間使用で、若い世代にも難聴が増えていると知り、正直驚きました。音楽を聴いたり動画を見たり、家にいる間はほとんどイヤホンをつけっぱなしの私…。早速「耳の休憩時間」を作って、聞こえを大切にしようと思います。(あ)